

IDE-JETRO INSTITUTE OF DEVELOPING ECONOMIES <http://www.ide.go.jp/>

障害学会第8回大会報告
2011. 10.02 9:30~11:15 一般報告[3]社会的障壁

フィリピン農村部における障害者の生計—都市部との比較から

森壮也・山形辰史

JETRO
アジア経済研究所
主任研究員

2011/9/28 (C) IDE-JETRO All rights reserved. 1

IDE-JETRO INSTITUTE OF DEVELOPING ECONOMIES <http://www.ide.go.jp/>

報告の構成

1. はじめに
2. 世銀・WHOの世界障害報告
3. 2007-2008年の調査・研究
4. 東京大学—IDE-PIDS調査(2010)
5. まとめ

2011/9/28 (C) IDE-JETRO All rights reserved. 2

IDE-JETRO INSTITUTE OF DEVELOPING ECONOMIES <http://www.ide.go.jp/>

世銀・WHOのWorld Report on Disability

- 2011年に出された世界の障害報告
- 障害者比率は、国や障害の定義によって様々
- しかし比率が低く報告されている国には開発途上国が多いのも事実

世界の障害者比率(%)

出所: WHO & World Bank(2011)

2011/9/28 (C) IDE-JETRO All rights reserved. 3

IDE-JETRO INSTITUTE OF DEVELOPING ECONOMIES <http://www.ide.go.jp/>

2007年調査から得られた3つの知見

1. マニラ首都圏で障害者の貧困率は、同地域の一般の貧困率よりも高く、深刻
2. 教育と所得の間には強い相関があり、本人の父の教育程度からも大きく影響
3. 女性障害者の所得、教育は所得や教育の内生性を考慮した後でも男性障害者よりも影響大

IDE-JETRO INSTITUTE OF DEVELOPING ECONOMIES <http://www.ide.go.jp/>


2008年の研究の問題意識と調査

- * 国連の障害者の権利条約
 - ⇒ 開発途上国にとっては、貧困問題の解決のツール
- * 開発途上国の障害者の貧困状況
- * 政府センサスを含めて政策立案上有用なデータ無し
- * 開発途上国の貧困調査・障害調査とどう違う？
- * 従来も貧困調査や障害調査はあったが…
- * フィリピンのマニラ首都圏において、2007年に生計調査実施
- * 開発研究所の開発・統計専門家＋障害当事者団体
- * 障害学の観点も念頭にいたディスアビリティへの注目

IDE-JETRO INSTITUTE OF DEVELOPING ECONOMIES <http://www.ide.go.jp/>

生計とディスアビリティ

- * 途上国の社会で障害者はどのような生活？
 - ➡ その経済的側面～貧困
- * 途上国の障害者の直面するディスアビリティは？
 - ➕
 - ディスアビリティを生計調査の項目として挙げる方法？
 - ➡



- ディスアビリティを自ら経験している
- 当該国の障害当事者の協力と参加

IDE-JETRO INSTITUTE OF DEVELOPING ECONOMIES <http://www.ide.go.jp/>

残された課題

- マニラ首都圏は、障害当事者団体も三障害について存在し、支援のための社会的リソースの比重も大きいところ
- 学校教育についても学校自体は存在する
- 都市部ではサービス業が貨幣経済の中で存在→盲人のマッサージ、ろう者のICT産業、肢体不自由者の自営業
- しかし、開発途上国の7割以上は農村部に居住する人々→農村部の障害者はどうしているのだろうか？

↓

- 2010年 ルソン島南部の農村部の村における障害者生計調査実施

IDE-JETRO INSTITUTE OF DEVELOPING ECONOMIES <http://www.ide.go.jp/>

東京大学-IDE-PIDS調査(2010)-1

ルソン島南部のある市(市自治体の公称数字)

- 人口 95,785人、世帯数 19,455
- 家族構成平均 4.92人
- 15歳以下の比率が37%
- 15-59歳が56%
- 60歳以上の高齢者が7%

調査地の年齢構成

- CBMS(2008)から10歳以上の人口のうちの労働可能人口は87%
- 全く職のない人たちの割合は4.7%

2011/9/28 (C) IDE-JETRO All rights reserved. 8

IDE-JETRO INSTITUTE OF DEVELOPING ECONOMIES <http://www.ide.go.jp/>

東京大学-IDE-PIDS調査(2010)-2

肢体不自由 視覚障害 聴覚障害

- 34バラングイのうち、31バラングイに障害者
- 肢体不自由者は、18バラングイ
- 視覚障害者は、16バラングイ
- 聴覚障害者は、23バラングイ
- にそれぞれ、おり、合計106人の障害者(対人口比率0.1%)

2011/9/28 (C) IDE-JETRO All rights reserved. 9

IDE-JETRO INSTITUTE OF DEVELOPING ECONOMIES <http://www.ide.go.jp/>

東京大学-IDE-PIDS調査(2010)-6

貧困状況	障害別貧困状況 (%)				合計
	肢体不自由	聴覚障害	聴覚障害	重複障害	
貧困状況					
所得面から見た貧困世帯	61.3	68.0	50.0	72.2	61.3
所得面から見た非貧困世帯	38.7	32.0	50.0	27.8	38.7
食料面からの貧困状況					
食料面から見た貧困世帯	58.1	64.0	40.6	61.1	54.7
食料面から見た非貧困世帯	41.9	36.0	59.4	38.9	45.3
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

- 貧困線以下の貧困世帯(所得面から見た貧困世帯)
- 当該地域における生存食料をまかなえない貧困世帯(食料面から見た貧困世帯)

2011/9/28 (C) IDE-JETRO All rights reserved. 13

IDE-JETRO INSTITUTE OF DEVELOPING ECONOMIES <http://www.ide.go.jp/>

まとめ

1. 農村部の障害者は教育へのアクセスを得られておらず、教育平均も第5学年までという低い状況
2. 家やTVなどを始め、最低限の生活を維持するための資産は保有
3. 雇用状況は、マニラ首都圏(50%)と比べてやや低いが(47%)、視覚障害者と聴覚障害者の所得順位が逆転
4. 従事している職業は、障害の違いに関わらず、農業で、非熟練労働が主で、肢体不自由者はサービス業、聴覚障害者は農業に従事する傾向
5. 貧困率は、農村部でも街区部、重複障害、男性、労働力外の人たち、支払いのない家族労働者で高い
6. 総じて、農村部の障害者の最大の問題は、教育へのアクセスと就業機会の拡大にあると言えそうである

2011/9/28 (C) IDE-JETRO All rights reserved. 14

IDE-JETRO INSTITUTE OF DEVELOPING ECONOMIES <http://www.ide.go.jp/>

ご静聴ありがとうございました



2011/9/28 (C) IDE-JETRO All rights reserved.
